

# 自然再生全体構想と自然再生事業実施計画の概要

## 自然再生全体構想

### <自然再生全体構想での自然再生目標>

麻機遊水地は、近年多くの湿地環境が失われていく中、生きものたちにとって開発の心配が少なく、市民にとって身近にふれあうことができる自然として、大切に後世まで引き継がれるべき場所です。

本事業では、麻機地域に昔から暮らしてきた多様な生きものたちが、遊水地で生息・生育できる環境を再生していくことを目標とし、麻機の風土に刻まれた人と自然との関係を手掛かりに、順応的に進めます。

また、対象区域は麻機遊水地第1,3,4工区としていますが、生態系としてつながる流域全体を視野に入れ、将来的には、自然再生の「わ」を市民・団体・行政の協働により、巴川流域に広げていきます。

## いのち 生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機

本構想では、**良好な生態系(環)**、**里地里山環境にあった人と自然との共生(和)**、**そして周辺の自然とつながり(輪)**を取り戻し、後世に伝えるために『生命(いのち)にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機』を目指しています。

## 自然再生事業実施計画

### <自然再生の当面の目標>

本実施計画では、昭和30年代前半の浅畑沼が存在していた時代の、人と自然との良好な関わりを取り戻し、麻機地域固有の動植物の保全・再生に努めます。

なお、2010年から5か年間は、今後の自然再生の取り組みを見直しながら、効果や影響について評価・検証を行います。その中で不足する科学的データの蓄積、継続的な活動に取り組むための組織体制やルール作りなどの構築を行いながら、順応的に自然再生への取り組みを進めていきます。

## 多様性のある湿地環境の再生

### 水路の再生 第1工区

昔の巴川の河川跡を活用した水路を再生し、現在麻機遊水地第1工区に流入している水路に生息する魚類や周辺部に生息する魚類を保全するとともに、子どもたちの環境学習の場としての整備を推進します。

### 湿地環境の再生 第1,3,4工区

遊水地内に残されている水田表土を活用し、在来植物の保全・再生に努めるとともに、植生遷移により攪乱依存種が消失している現状を踏まえ、人為的な攪乱により、その再生を図ります。

### 多様性のある池沼部の再生 第1,3,4工区

第1工区の池沼部において、部分的に深みを設けるなどの変化をつけ、在来魚の生息、産卵、越冬などに配慮した環境を創出します。

また、麻機遊水地第3工区においては、分断された池の連続性を確保することにより、魚類の生息環境や水循環の確保を図ります。

### 外来種の駆除 第1,3,4工区

繁殖力の強い動植物や捕食等により在来種に影響を及ぼしている外来種を駆除し、麻機固有種の保全・再生を目指します。

## 人と自然との良好な関わりづくり

### 自然再生推進のための組織の構築及び人と自然との良好な関わりづくり

麻機遊水地の湿地環境を維持するための組織及びルール作りを行うとともに、昭和30年代前半に見られた人と自然との良好な関係の構築を目指します。

## 麻機遊水地に関する資料・情報

### パンフレット

- 麻機遊水地に蘇る生きものたち
- 麻機遊水地の自然シリーズ1~4 (野鳥、植物、昆虫、魚類)
- 巴川流域総合治水対策 ご案内
- 巴川探検隊
- ※上記のパンフレットは静岡土木事務所河川改良課で配布しています。

### ホームページ

- 静岡県静岡土木事務所ともえランド 巴川流域麻機遊水地自然再生協議会の情報が掲載されています。

ともえランド

検索

### 静岡市治水交流資料館 かわなび

TEL: 054-237-1322  
静岡市治水交流資料館(かわなび)は、治水対策事業や過去の水害について学びの場を提供し、市民の皆様への防災意識の向上を促し、災害に強いまちづくりの推進を図ることを目的とした施設です。館内では、映像、模型等の展示により、巴川の治水事業を知り、学び、楽しむことができます。

## 協議会への参加募集について

巴川流域麻機遊水地自然再生協議会では、いっしょに自然再生事業の活動に協力していただける協議会委員の募集を行っています。参加希望される団体、個人の方は事務局までご連絡ください。

### 応募資格

- 本協議会の設立趣意書、設置要綱、全体構想、実施計画に対し理解していただける方
- 現地と一緒に汗をかいていただける方

## アクセス



### アクセス(バスご利用)

静岡駅前バス停から  
■16番乗り場 大浜麻機線(麻機行/麻機北行) 草場バス停下車  
■5番乗り場 ことども病院線(静岡神経医療センター行) 流通センター入口バス停下車

## 協議会構成員名簿 (H24.4.1現在)

学識委員:6名  
団体名…観山中学校/麻機小学校/城北小学校/麻機学区自治会連合会/城北学区連合町内会/千代田東学区連合町内会/南沼上柴掘げ漁保存会/麻機南中柴上げ保存会/麻機湿原を保全する会(NPO)/麻機村塾/麻機遊水地ランド利用者会議/しずおか環境教育研究会(NPO)/しずおか流域ネットワーク/静岡ロータリークラブ/富士の国・学校ビオトープ(NPO)/森づくり愛好会/地域の庭を作る会/独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター/静岡県立中央特別支援学校/静岡県立北特別支援学校/在来種保護再生/グランドゴルフ/しずおか創造ネット(NPO)/日本へら船釣研究会/駿府静岡歴史会/静岡植物研究会/静岡北中学校高等学校

個人委員:23名  
行政機関…国土交通省静岡河川事務所/静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課/静岡県交通基盤部河川砂防局河川海洋整備課/静岡県静岡土木事務所/静岡県環境局環境創造部/静岡市都市局都市計画部/静岡市建設局土木部

作成: 巴川流域麻機遊水地自然再生協議会  
事務局: 静岡県静岡土木事務所  
静岡市駿河区有明町2-20 tel:054-286-9363  
http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/shizuoka/tomoeagawa  
静岡市  
静岡市葵区追手町5-1 tel:054-221-1432  
http://www.city.shizuoka.jp/deps/kouen-keikaku/index.html

このパンフレットは再生紙を使用しています。発行 H24.10

# いのち 生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機



## 巴川流域麻機遊水地自然再生協議会

# 巴川流域麻機遊水地 自然再生協議会

## 協議会設立の目的

麻機遊水地の整備により、過去に損なわれた自然環境である湿原が蘇り、多様な生きものが復元しました。

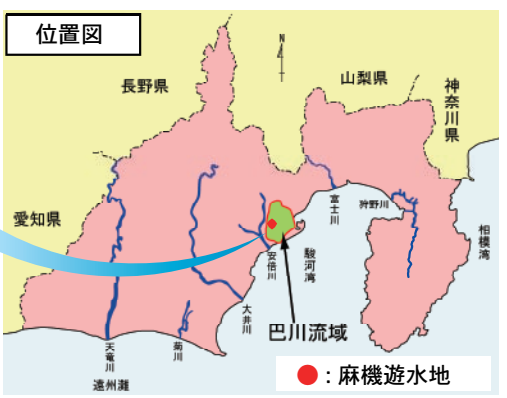
そのため、NPOや専門家、遊水地周辺の住民、関係地方公共団体などによって構成する「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会」を設立しました。協議会では、将来にわたり安定した「人と生きものとの共生」を目指し、人の利用空間、生きものとの生息・生育環境、地域との関わりや景観など遊水地の自然環境のあり方について共に考え、またその自然環境を保全・再生・創出し、維持管理を共に実施する事を目的としています。



## 自然再生の対象区域



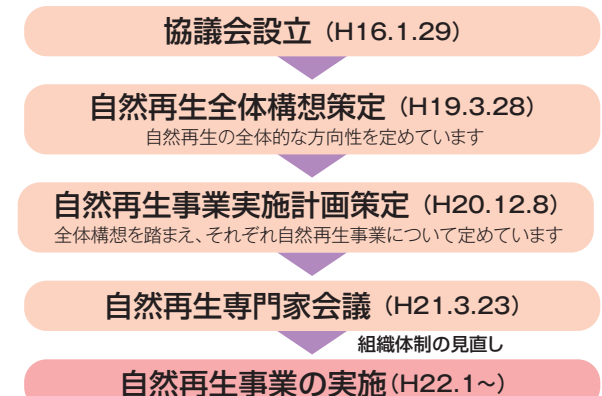
麻機遊水地は、静岡市の中心市街地から北に約5kmのところりに位置しています。自然再生全体構想では、治水整備が完成し比較的良好的な湿地環境が残る第1工区(約22ha)、第3工区(約55ha)、第4工区(約32ha)の総面積約109haを自然再生の対象区域としています。



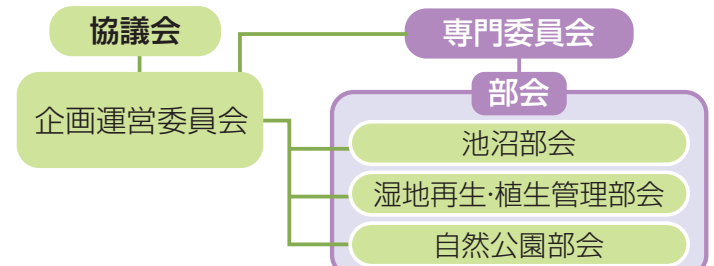
## 遊水地内で実施されている事業

遊水地内では、治水整備のほか、公園整備や自然再生事業が進められています。主な実施機関は以下の通りとなっています。治水整備:静岡県が実施 公園整備:静岡市が実施 自然再生事業:静岡県と静岡市、協議会が実施

## 協議会のこれまでの流れ



## 協議会の組織体制



協議会: 検討事項、協議会規則、新規加入者の承認等  
専門委員会: 自然再生に必要な専門的事項に関するアドバイス等  
企画運営委員会: 自然再生事業を進める際の方針決定、部会間の調整及び協議会、部会等の運営に関する検討  
各部会: 課題別の計画検討及び実施状況等についてのモニタリング調査及び維持管理等

## 麻機遊水地の昔

麻機遊水地のある地域は、元来低湿地帯で現在の第3工区付近には浅畑沼(大沼)が存在し、その周辺部にも小沼や武平淵といった沼地が散在していました。

沼が存在していた時代には、文献によると沼にはヨシやマコモが生い茂り、クイナ、パン、ヨシキリなどの野鳥、多くの渡り鳥が飛来し、その他にもチョウトンボやギンヤンマなどの昆虫、ギンブナやモツゴ、ドジョウ、メダカ、ウナギ等の魚類が生息していたことが明らかになっています。

また、人と自然との良好な関わりが構築されていた時代には、沼では伝統漁法の「柴あげ漁」やカモなどの狩猟が行われ、人々は沼から自然の豊かな恵みを受けることができました。

しかし、1965年(昭和40年)前半に、食糧増産を目指した土地改良事業などにより、沼は優良な水田として整備され徐々にその姿を消していきました。

そして1974年(昭和49年)の七夕豪雨を契機に、水田から遊水地への整備が始まりました。



(現在の第3工区) 昭和33年頃の写真

## 麻機遊水地の自然

遊水地の整備により池沼部が形成され、魚類や水生昆虫が生息するようになりました。さらに、これらを餌とする野鳥や開放水面を休憩の場として利用する野鳥が多く飛来するようになり、これまでに遊水地で確認された野鳥は200種以上にもなります。

また、沼から水田へと姿を変えてきた麻機遊水地では、かつての浅畑沼に生育していたアシやガマ群落などが多く見られますが、治水整備により埋土種子が掘り起こされた箇所では、水田や沼に生育していた数多くの攪乱依存種が芽生え、これまでに確認されている植物は約600種にも及んでいます。その中には国や県が絶滅危惧種に指定しているミズアオイ(県版RDB※1: VU)やタコノアシ(県版RDB:NT)も見られ、2001年(平成13年)には、環境省より全国最大級のミズアオイの自生地として、また、タコノアシなどの絶滅危惧種が多いことから、「日本の重要湿地500(ウェットランド500)」に指定されています。

他にも、アシやガマ群落ではカヤネズミ(県版RDB:NT)などの生息・繁殖も確認され、また、水田表土※2の攪乱により植物の種類が増加したことや池沼部が形成されたことで、野鳥だけでなく昆虫の種類も一気に増加し、特に湿地に生息するイトトンボ、ヤンマ類などのトンボが多く生息するようになり麻機遊水地は、多くの動植物が集う多様性のある湿地環境となりました。



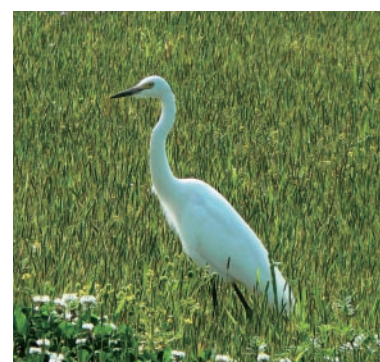
ミズアオイ



タコノアシ



カヤネズミ



チュウサギ



ギンヤンマ

※1 県版RDB「まもりたい静岡県の野生生物」

※2 水田表土:本文中の水田表土は、水田環境に生育する在来種の種子が含まれた表土のことを示す。

# 麻機遊水地の自然再生事業



● 水田表土を活用した湿地の再生

● 水路の再生

● 池の深掘り

● 湿地環境の再生

● 開放水面の確保

● 湿地の攪乱

● 開放水面の確保  
(外来植物駆除)

● 池の連続性の確保

## 麻機遊水地の利用

麻機遊水地では、豊かな自然環境を活かし、NPOや各種団体、行政などが、自然観察会や環境学習を行っています。

その他にも、浅畑沼があった時代に行われていた伝統的漁法の柴あげ漁の再現や、地域住民による清掃活動が行なわれています。

また遊水地内にあるグラウンドでは、近隣の中学の部活動や市民のレクリエーションの場としても利用されています。更に、第1工区と第3工区では公園整備の予定があり、今後ますます利用の“わ”が広がっていきます。



イベント: 治水の啓発活動



イベント: 環境活動



クリーン作戦



柴あげ漁



地元中学の部活動



市民のレクリエーション利用

## 自然環境の課題

### 水環境の悪化



池沼部では、ホテイアオイ等の繁殖力の強い外来種が繁茂し、開放水面が減少しています。また、平常時には、遊水地内に流入する水が少なく、湿地の乾燥化が進むなどの問題が発生しています。

### 生態系の悪化



植生遷移により、ヨシやヒメガマが生い茂り、また、セイタカアワダチソウなどの外来植物が進出し、ミズアオイなどの攪乱依存種の生育環境が失われ、多様性のある湿地環境が失われつつあります。

### 人と自然との関わりの変化



ゴミの不法投棄や外来種の持ち込みなど、利用マナーが悪化しています。また、かつてあったような人と自然との関わりが減少し、多様性の少ない環境になりつつあります。

## 自然再生事業の取り組み

### 開放水面の確保

池沼部では、在来魚や水生昆虫の生息環境の保全、水質の悪化を防止するため、池沼部を覆いつくす、繁殖力の強いホテイアオイやチクゴスズメノヒエの駆除を進めています。

また、第1工区においては、多様性のある池沼部を再生するために、深みの設置も進めています。



外来植物の駆除作業の様子

### 湿地環境の再生

第3工区では、平成10年ごろにミズアオイ群落が出現しました。しかし、植生遷移により、ミズアオイの数が減少したことから、重機や人力により攪乱し、多様性のある湿地環境の再生を進めています。また、第1工区では、治水整備で掘削した水田表土を活用した、湿地環境の再生を行います。



湿地の攪乱作業の様子

### 水路の再生

第1工区に流入していた用水路には、多くの魚類等が生息していました。しかし、治水整備により水路を撤去することとなり、その救出作業を近隣の小中学生と行いました。今後は、第1工区で実施される公園整備の中で、魚類等の生息に配慮した水路の再生を行います。



撤去する水路の魚類等の救出作業の様子



トイレ

駐車場